

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「熟語の成り立ち」 教材名「熟語の成り立ち」

2 単元の目標

語句の構成と意味の関係を理解することができる。自分の文章を読み返し、伝えたい意味に合う熟語を選んで表現を直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語句の構成と意味の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、自分の文章を読み返し、伝えたい意味に合う熟語を選んで表現を直している。（B(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

熟語を構成する漢字の意味と関係から、語全体の意味を確かめる。分類名を覚えるだけでなく、その関係が説明できる語を選んで使う。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自例「上下」「読書」など既習の漢字でできた語を、意味を表す短い言い換えにする。分類できない語は無理に決めず、辞書の説明を確かめる。おおむね満足できる状況は、自分の文章を読み返し、伝えたい意味に合う熟語を選んで表現を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○熟語を漢字ごとの意味で考える。意味の関係を言い換えて分類する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○辞書で語全体の意味を確かめる。熟語を使う文を書き直す。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

自分の文章を読み返し、伝えたい意味に合う熟語を選んで表現を直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この熟語の漢字同士は、どんな意味の関係にありますか」 【めあて】熟語を構成する漢字の意味と関係から、語全体の意味を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・上下は反対の意味が組み合わさっている。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この熟語の漢字同士は、どんな意味の関係にありますか」 辞書で語全体の意味を確かめる。熟語を使う文を書き直す。 熟語、各漢字の意味、漢字同士の関係、文で使った例。自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・上下は反対の意味が組み合わさっている。 ・読書は書を読むという関係で説明できる。 ・同じ分類に見えても辞書で確かめたい。	独自例「上下」「読書」など既習の漢字でできた語を、意味を表す短い言い換えにする。分類できない語は無理に決めず、辞書の説明を確かめる。 想定するつまずき：すべての熟語を一つの分類に押し込む、漢字の読みだけで意味を決める。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 自分の文章を読み返し、伝えたい意味に合う熟語を選んで表現を直している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ分類に見えても辞書で確かめたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この熟語の漢字同士は、どんな意味の関係にありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

